

研究会報告

文献情報のデータベースと
その利用に関する研究会

昭和63年度 統計数理研究所 共同研究 (63-共会-98)

開催日：1989年3月16日～17日

研究代表者：村上 征勝 (統計数理研究所)

計算機の発達にともなって、その応用分野も拡がり、今日では文学、哲学、宗教学、考古学、民族学等の人文科学の各分野でも文献情報のデータベースの作成に関する研究や、データベースの積極的利用を目的とした研究が数多く行なわれている。しかし、各分野間での研究交流は必ずしも十分とはいえない。そこで、これら人文科学の諸分野の研究者の交流を深め、研究情報の交換、成果の報告、及び今後の課題等の討議の為に標記の研究会を開催した。参加者は40名であった。

プログラム

3月16日

司会：吉岡 泰夫 (熊本短大)

「国文学研究とコンピュータ」

安永 尚志 (国文学研究資料館)

「コンピュータと言語処理」

小橋 史彦 (NTT ヒューマンインタフェース研究所)

「国語研究所におけるデータベース構築構想について」

江川 清 (国立国語研)

司会：山元 周行 (北大・理)

「考古学における調査報告書——データベース作成上の問題点について」

及川 昭文 (国立教育研)

「日蓮の文体について」

古瀬 順一 (群馬大・教育)

「日蓮の文体の計量分析」

春日 正三 (立正大・文)・伊藤 瑞叡 (立正大・仏教)

安本 美典 (産業能率大・経営情報)・古瀬 順一 (群馬大・教育)

藤本 熙 (明星大・人文)・山元 周行 (北大・理)

米田 正人 (国立国語研)・岸野 洋久・村上 征勝 (統数研)

3月17日

司会：松本 浩一（図書館情報大・図書館情報学）

「人文科学とコンピュータ」

「著者推定問題の数理統計学的研究」

杉田 繁治（国立民博）

村上 征勝（統数研）

司会：勝村 哲也（京大・人文科学研）

「日本古代史における一字索引の利用例」

「手紙文のデータベース」

「梵文法華經の計量分析」

星野 聰（京大・計算機センター）

樺島 忠夫（大阪府大・総合科学）

伊藤 瑞叡（立正大・仏教）・村上 征勝（統数研）